



長崎リハビリテーション学院

〔学院長〕 安中正哉
 〔所在地〕 〒856
 長崎県大村市赤佐古町42
 〔電話〕 09575-3-7883
 〔学科〕 理学療法学科
 〔学生定員〕 30名
 〔入試倍率〕 58年度5倍
 〔修業年限〕 3年(昼間)

開設の目的

近年増加の一途を辿る脳卒中、交通災害またリウマチなどの慢性疾患、各種先天性疾患などによる「障害」を持つ人に対するリハビリテーション医学が急速に発展して来た。リハビリテーション医学の重要な担い手である理学療法士は医療機関のみならず、教育・研究の各分野で待望されている状態で、現在充足には程遠い状況にある。ここにおいて当学院は、PTの充足、技術水準の向上および確固たる医療モラルの上に立つ人間形成の必要性を痛感し、理学療法士を養成して、医療社会の要請に応えようとするものである。

沿革

本学院は昭和56年4月、理学療法士養成校(それまでは、九州には九州リハビリテーション大学校のみであった。)として開設された。学院の存在する大村市は、医学の伝統を有する長崎県で、長崎市の北東約40kmの地にある。当市は長崎県の空の玄関となっており、東京、大阪はじめ、九州の主要都市、沖縄、国際線として中国などを結んでいる。このように空路利用において至便の地にある。

さて学院は、大村駅より数100m離れた小高い丘陵地に位置し、教室、図書室などから外に目を転じると、緑に囲まれた町並、常に穏やかさを失わない大村湾、湾

上に浮かぶ空港に離着陸する機影などが展開する。学院周囲には、四季折々の草花が生育し、時に甘い香りを運んでくれると共に、色の鮮やかさ、可憐さが、目を楽ませ、心を和ませてくれる。このような絶好の環境の中、学生は、勉学、クラブ、あるいは趣味活動に伸び伸びと毎日を過ごしている。

教育目標・教育方針

1. 国際的視野に立って高度の専門的知識、技能を習得すると共に、一般的教養を深め、調和のとれた人間を育成する。

2. 複雑な心身障害を持つ患者に対し、人間尊重を基調として、親しまれ信頼される情操豊かな人間を育成する。

3. 自己の使命と責任を自覚し、日進月歩の医学・医療に即応でき、生涯に渡って研鑽に励み、その使命を果す意欲のある人間を育成する。

学生指導に当っては、以下の3つの事を心掛けていく。第1は、“人間性の豊さを基盤として、将来発展性創造性のある人材の育成”ということ。第2は、“視野の広い人間”。第3は、“基礎を確実に”ということである。

第1の目的のためには、常に学生自ら考える態度の涵養ということで、講義、実習などで考える学習を強調することや自己研鑽の習慣化などを、第2は、一般的に専門職というものは、物の見方、考え方など、視野が狭くなる傾向がありがちだが、このことは、障害者のリハビリテーションを実践する上にも好ましいことではないので、出来得る限り種々の分野の知識・考え方などを吸収するよう、第3は、第1の目的とも関連して基礎はきわめて肝要な事と考え、基礎の徹底化を計り、その上で高度の知識技術へと展開してゆくよう指導している。

(理学療法学科 天満 和人)